



平成 29 年 10 月 24 日

兵庫県内経済情勢報告 (平成 29 年 10 月判断)

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回 (29 年 7 月判断)	今回 (29 年 10 月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 29 年 10 月判断は、前回 7 月判断以降、10 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は持ち直しており、雇用情勢は改善しているなど、全体としては緩やかに回復しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回 (29 年 7 月判断)	今回 (29 年 10 月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直している	→
雇用情勢	改善している	改善している	→
設備投資	29 年度通期は前年度を上回る計画となっている	29 年度通期は前年度を下回る計画となっている	↘
企業収益	29 年度通期は増益見通しとなっている	29 年度通期は増益見通しとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果を背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、企業活動などに影響を与える国内外需要の動向、海外経済の不確実性、為替の影響等に留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売額は、おおむね横ばいとなっている。百貨店では、婦人服を中心に衣料品が低調であるものの、化粧品が好調であった。スーパーでは、主力の飲食料品を中心に全体ではおおむね横ばいとなっている。コンビニエンスストアでは、カウンター商品や惣菜などを中心に好調である。家電大型専門店では、高付加価値の白物家電や充電式掃除機などが好調である。乗用車の新車登録届出台数は、軽自動車牽引し前年を上回っている。このように、個人消費は全体として緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- アニサキス関連の報道で生鮮魚が不振であるが、高齢者を中心にタンパク質摂取のトレンドで赤身肉などが好調であるほか、健康志向の食品が好調であった。また、冷感素材を使用した寝具なども好調であった。(スーパー・大企業)
- 衣料品は全体的に厳しい状況が続いている一方で、働く女性が増加していることで女性主導の消費が近年目立っており、化粧品や高級ブランド品などが堅調となっている。(百貨店・大企業)
- 単身世帯や独身者、高齢者向けなどで冷凍食品、パウチ惣菜、カウンター商品が好調であった。また、一部商品の値下げの効果により日用品も好調であった。(コンビニエンスストア・大企業)
- 高齢化に伴い負担が少ないロボット型掃除機や充電式スティッククリーナーが好調であったほか、省エネ冷蔵庫やドラム式洗濯機など高付加価値の大型白物家電が好調であった。インバウンドに関しては、デジタルカメラやパソコンなどの製品の需要が減少している一方で、美容商品などが好調であった。(家電量販店・中堅企業)

■ **生産活動** 「持ち直している」

生産活動は、蒸気タービンの減少などによりはん用・生産用・業務用機械が減少している。一方で、旅客車などが堅調であり輸送用機械が増加していることなどから、全体では持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 鉄道車両分野では他社との価格競争が激しいが、アジア向けの受注を確保できているなど堅調に推移している。(輸送用機械・大企業)
- 最近 2~3 年は好調な状況が続いているが、米国での自動車版サブプライムローンに関する懸念に伴い米国自動車販売が不振であり、足下ではその影響を受けてやや陰りがある。(情報通信機械・大企業)
- 国内で設備投資が増加している面や政策の後押しもあって、工作機械の受注環境は良くなっている。ただし、昨年度に積み上げた在庫が残っているため、工場の稼働率は昨年比に低下している。(生産用機械・大企業)
- 高齢化に伴いアンチエイジング関連の製品が好調となっている。工場はフル稼働の状況が続いており、自社工場で賅えない部分は外注して生産している。(化学・大企業)
- 消費者の低価格志向は根強く、国産食肉よりも安価な輸入食肉の方が好調であるものの、売上・生産は前年を上回る状況が継続している。(食料品・大企業)

■ **雇用情勢** 「改善している」

有効求人倍率は 1.32 倍 (29 年 8 月) と、1 倍を超えて上昇を続けているほか、新規求人数、有効求人数はともに増加傾向にあるなど、雇用情勢は改善している。なお、法人企業景気予測調査 (29 年 7~9 月期調査) をみると、従業員数判断 BSI は、「不足気味」超となっている。

(主なヒアリング結果)

- 雇用情勢は改善が続いており、金属や輸送用機械など自動車関連企業からの求人が多い。また、建設業では東京方面に人が流れており、技術者不足となっている。正社員については有効求人倍率が 0.80 倍と上昇が続いている。(公的機関)
- 生産増加への対応や、雇用の売り手市場の中での転職者の発生などにより、特に製造技能職を中心に人手不足となっている。(その他製造・大企業)

➤ 工場部門で人手不足が継続しており、最近では外国人も活用している。今後は、製造ラインを自動化し生産能力を上げていく予定。(食料品・大企業)

■ **設備投資** 「29年度通期は前年度を下回る計画となっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」29年7~9月期
法人企業景気予測調査(29年7~9月期調査)でみると、29年度通期の設備投資は、製造業では輸送用機械などが前年度を上回るものの、非製造業では運輸、郵便などが前年度を下回ることから、全産業では前年度を下回る計画となっている。

■ **企業収益** 「29年度通期は増益見通しとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」29年7~9月期
法人企業景気予測調査(29年7~9月期調査)でみると、29年度通期の経常利益は、製造業ではその他製造業などが減益見通しとなっているものの、非製造業では運輸、郵便などが増益見通しとなっていることから、全産業では増益見通しとなっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数(後方3か月移動平均)でみると、前年を上回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額(年度累計)でみると、前年を下回っている。
- **輸出** 神戸港の通関実績(円ベース)でみると、前年を上回っている。
- **企業金融** 法人企業景気予測調査(29年7~9月期調査)でみると、資金繰り判断BSIは全産業で「改善」超となっている。また、金融機関の融資態度判断BSIは全産業で「緩やか」超となっている。
- **企業倒産** 企業倒産件数を3か月平均でみると、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(29年7~9月期調査)でみると、企業の景況判断BSIは全産業で「下降」超となっている。先行きについては、全産業で29年10~12月期は「上昇」超に転じ、30年1~3月期は「下降」超となる見通しとなっている。

(注)本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。